

XII. 関連資料

XII-1. 2010年12月11日(土)、創価大学「FDフォーラム2010」講演内容

*パワーポイントは、文末に掲載

経済学部のご神立でございます。今日は、お忙しい中おいでいただきまして大変にありがとうございます。私からは、これまで経済学部で取り組んでまいりました就業力GPの内容を少し紹介させていただきながら、最終的には創価大学全体の就業力と、そして就職力も伸びていけばいいというその願いを込めまして、事例紹介になりますが発表をさせていただきますと思います。

まず、このGPの正式な名称はタイトルに出ていますように「大学生の就業力育成支援事業」いわゆる「就業力GP」といわれるものです。

本学でこのGPに申し込みいたしましたのは経済学部が中心になりまして、キャリアアセンターの方々とも手を取り合って中身を考えてきたものでございます。テーマが「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力」とうことで、サブタイトルで、「専門教育と就業力をつなげるカリキュラム並びに個別学習マップの構築」。このテーマを掲げて申請をおこない、認められたものでございます。本日の発表の内容であります。就業力GP採択の報告、本学部の掲げる就業力とは何か、具体的な取り組みの概要、取り組みの詳細、今後のスケジュールという順でお話をさせていただきます。

もともとこの就業力GPというのは5年間の計画で認められたものでありますので、今後は、経済学部から全学への展開ということを考えて、いろいろなスケジュールを組んでみました。それでは具体的に話しをさせていただきます。

1. 就業力GP採択の報告

まず、就業力GP採択の報告ということとなります。

経済学部では2007年度に「グローバル化時代の経済学教育」というテーマで「特色GP」に採択されました。具体的な内容は皆さんよくご存じのIP(インターナショナルプログラム)です。つまり、英語による経済学教育ということで、英語のみを使って授業をしていく。それを体系的に組み上げたグローバル化時代の授業ということで採択されました。3年計画で前学部長の長谷部先生の強力なリーダーシップによりまして、最終年度の2009年度まで、これが続きました。GPが採択されますといろいろと良いことがありましたので、もう一度経済学部としてもチャレンジしたいということになりました。そこでスタッフ全員でいろいろ相談をいたしました。だいたい2009年の秋口くらいから、次はどのようなGPを申し込もうか、という議論のなかから、今回の就業力GPのテーマが浮かび上がってまいりました。そうした流れから、昨年11月に申請の準備を開始したのです。

採択された中身であります。学部教育目標を掲げ、カリキュラムチェックリスト(C

CL)を作成するということでもあります。経済学部の教育目標というのはこれまでもいろいろな形で公表してきておりますが、

- ① 体系的な経済学教育を通して問題発見・解決能力、論理的思考能力を備えた人材を育成する。
- ② 英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。
- ③ 人間主義に基づく経済学教育を通して、人類の平和に貢献し、世界に通用する人材を育成する。

これが経済学部の3つの目標です。それに基づきまして、様々な形でカリキュラムを考えて参りました。さらに、カリキュラムチェックリストを全科目にわたって作成いたしました。これについてはまた後で詳しくご説明させていただきたいと思っております。それから、学部主催の海外研修を3研修体制に拡充しました。これについてもまた後で詳しくご説明いたしますが、3つの研修というのは、具体的にいいますとシンガポール、カリフォルニア、マンチェスター。この3つの海外研修を設定いたしました。それから、最も活用させていただいておりますのが、3つ目の経済学部の教育ラウンジ、“F E E L”でございます。A棟の2階に経済学部の学生たちが自由に出入りをして、そこで様々な勉強ができる。そういうラウンジを作って頂きました。そこで今年話題になりました、経済学能力検定試験の大学対抗戦で6連覇を果たしたメンバー。このメンバーたちが大いにこのラウンジを活用したしまして、学生同士で相互に経済学を学び合うということをしております。現実には我々、教員サイドは彼らに対して特に何かしたわけではなく、先輩が後輩にいろいろな形で教えていく、ということを果たすことができました。このラウンジはありがたく活用させていただいております。

それから英語教員の増員、FD活動の推進、学生アシスタント、SAですね、これを強化いたしました。特に1年生の基礎演習ですけれども、各ゼミ全員SAを付けるということでSAの強化を図ってまいりました。それから、英語で留学生が参加して、一緒に授業を受けるという形のJASというプログラム、“Japan-Asia Studies Program”を開講いたしました。ここでは留学生向けに日本の経済をはじめ、様々なことにつきまして英語で教育を行っております。したがって、日本人の英語ができる学生も参加いたしまして、留学生と共に学んでおります。日本にいながら海外で学んでいるのと同じ体制をとることができる。こういうこともやってまいりました。それから外部評価制度の確立でございますが、2007年度のこの特色GPの採択に関して外部評価をお願いしたのは、明治大学の安蔵先生、秋田国際大学の小山内さん、ジブリの社長の星野さん。この3名の方々に外部評価委員をお願いいたしまして、様々な点からこの特色GPについての評価をしていただきました。そこでまたいろいろな意見がでまして、それをさらに次の改革へつなげていこうということで、現在も進めている最中でございます。さて、「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力」ということで、この就業力の

申請をしてきたわけですが、具体的にはこの就業力G P採択の一つの柱が、学部教育と連動するキャリア教育の実践ということであります。

この就業力育成支援事業の審査結果というのをいただきました。この審査結果で、我々が申請いたしました、プログラムの優れた点として認めていただいたことが2点ございます。

まず1点目は、本事業の趣旨、つまりこれは文科省の持っている就業力の事業ですね、その就業力G Pの趣旨と、学部教育目標や取組の内容が合致しており評価できる。こういう点でございました。それからもう一つ。取り組みのいくつかが専門科目と連携しており、取り組みの一つ一つが体系だっていることから、専門科目とキャリア科目が分断されずに接続されている点が高く評価できる、ということでした。実際の専門教育とキャリア教育がどのように結びついているのかという点ですね。そここのところに我々も随分苦心したわけですが、そこをうまくまとめられたということで評価をいただいたようでございます。ただ、それに対して改善を要する点というのもいくつかございました。具体的にいいますと、成果目標について、より具体的な数量的目標の設定が求められる。つまり、成果をよりわかりやすい数字で示せ、ということです。より詳しく説明せよということで、我々としては随分その申請書の中に、いろいろな具体的な数字を盛り込んだのですが、まだそれでも足りないのかな、というのがこれを頂いた時の実感でした。そういうご指摘がございました。それから企業と共同で作る科目、これはまた後でご説明いたしますが、「社会貢献と経済学」の講義について、外部講師だけでなく専任教員が積極的に参加することを期待したい、という指摘もございました。これは今回のG Pの目玉の一つで、外部の実際に社会で働いているさまざまな方々との協力で科目を設定し、就業力をつけていくということを求められていたものですから、我々もこれを踏まえた上で、「社会貢献と経済学」という講義を設けてやっていこうとしたわけですが、もっともっと専任の教員が、こういった実際の就業力を測っていく、強めていく、高めていく、そういう授業に積極的に参加してもらいたい、こういうメッセージだなと受けとめております。あとは就業力測定テストについてですね。これは、期待していますよ、ということでお話を頂きました。

こうしたことをふまえつつ、学部教育というものと連動するキャリア教育をどう実践していくかということが、就業力G Pの一番のポイントであると思います。

その上で、具体的な新しい取り組みとして私たちが考えたものがここに掲げたもので、一つは、企業関係者との共同で作る実学科目「社会貢献と経済学」。これは1年次の後期に新設しようということで準備を始めております。来年度の後期からこの科目を開始したいと思っております。それから2年次の進路の仮決めと希望進路調査、就業力測定テストの導入ということで、これはキャリアセンターの方々にお聞きいたしますと、4年間のキャリア教育のなかで最もエアポケットになるのが、2年生の特に前期である、と。2年生の前期に、やはり何もしないで過ごしてしまう、そういうパターンが多いの

で、ここで何らかの形で、就職あるいはキャリアに関する関心を高める、そういう仕組みができないだろうかということで、2年生の前期にスポットを当てて、こういった希望進路調査、進路の仮決めを導入いたしました。その上でキャリアのための特別学習マップ、これはまたあとで説明させていただきます。我々はこれを「マイマップ」と名付けました。学生個人個人が自分の進路のための地図、方向性、これを作るということで「マイマップ」というふうに名づけたのですけれども、こういったマップを開発していこう。それから、海外キャリア研修の実施。単なる語学研修でなく、むしろキャリア研修として国内と海外のインターンシップを拡充していこうということで、これを考えていくことにいたしました。

2. 本学部の掲げる就業力とは何か

実際に本学部の掲げる就業力というのは、一体どういうものなのかということですが、この就業力が出てきたその背景は言わずもがなのことですが、就職問題でございいます。実際に就職が、年々厳しくなっているのはご承知の通りだと思います。この就職というのは厄介なもので、その年その年の景気の状態ですら左右されるのです。景気の良い時は、こんな能力でこんな会社に入っちゃっていいの、というような学生が何人もいました。そのかわり、景気が悪くなってくると、こんなに高い能力があるのに、この程度の仕事にしか就けないのかと、本当に悔しい思いをすることがあります。そういうことで社会の情勢に左右されてしまうわけですが、現実にはこの数年間経済学部で就職率というのを見てみますと、2007年の段階では91.6パーセントが就職できていたわけです。それが2008年になりますと、89.3パーセント、2009年になりますと、84.6パーセントになり、昨年は79.5パーセントまで下がってしまった。これはたぶん経済学部だけの問題ではなくて、全学部、本学全体の問題でもあるのだろうと推測できます。もっといえば、社会全体の就職率が下がってくるという、そういうような状態になってきている。そこで就業力というのを考えていかななくてはいけないし、そうした力を付けなければいけないということで、このGPが始まったのだろうと思います。特に、雇用システムが変化し、各社の経営基盤が非常に動揺しておりますので、なかなか就職というのも難しい。先ほど寺西先生の方からもご指摘ありましたけれども、3年生の秋口から就職活動が始まって、4年生の前期はもう授業にならない。こういうような状況で、本当にこれでいいのだろうか、と思いつつ私たちも実際に教えているわけですが、こうした就職活動の在り方などは、社会全体の問題だと思います。それから、こうした就業力を含め、新しい大学教育の在り方がいろいろな形で模索をされているということが、この就業力の問題の背景にあるのだろうと思います。この社会の変容に対して、日本学術会議の答申ですね。大学と職業の接続の在り方という項目が設定されておまして、その中に次のような文言が入っております。

「大学と職業の接続の在り方を改善することであり、端的にそれは大学教育の職業的

意義を向上させることが重要」である。

これはよく読んででもなかなか理解できないところがあつて、大学教育の職業的意義を向上させるというのは一体どういうことなのだろう。これは先ほどの専門職の教育ということになるのでしょうかね。僕らも今考えている最中で、よくわからないのですが、実際には職業について学生にもっと考えさせてもらいたい、というような要求なのかなとも思えます。これは多くの先生に様々な形でご議論いただければと思っております。それからもう一つは、大学は学生の質保障に責任を持つ。これが学士課程教育の構築に向けてというなかで出てきています。多様性と標準性の調和ということで、大学は卒業生に対してこの程度の力がついている、こういうような形のものをもっている。大学でそれを全部保証しなさいという流れになっておりまして、そういう意味では非常に何と申しますか、堅苦しいような、あるいはいろいろな形で考えを改めていかなければいけないような、様々なことが突き付けてられていて、本当に昨今大変だなあと。愚痴になってきますけれども、そう思うわけでございます。

創価大学の建学の精神はこの3つでございます。

いわずもがなでございますが、我々はこの建学の精神に基づいて、実際に大学の教育、そして大学の目指すべき方向ということで、人間教育の最高学府たれ、新しき大文化建設の揺籃たれ、人類の平和を守るフォートレスたれ、この3つの指針を目指して、大学の教育を進めていく、また、人材を育成していくということになっております。これをベースにして一体何ができるのか、これを目指していくためには何が必要なのか、ということになってくると思います

その中で、経済学部教育目標と就業力ということで、我々経済学部のスタッフが、先程申しましたけれども昨年の11月からこのG Pの採択のための委員会と申しますかワーキンググループを作りました。教員は学部全体で21名です。21名の中で、約7名から8名がこの申請に携わって、多い時は、半分の先生に参加して頂きまして、中身を考えました。いろいろ考えた末に出てきたこの就業力の構成要素というのは、3つにまとめられるのではないかと、ということで最終的にこういう形になりました。一つは、学部の教育目標にも掲げてありますが「問題発見・解決能力と論理的思考力」。これを付けてもらうための何らかの形での講義、カリキュラムを考えていかなければならないだろう。それから、二つ目として、グローバル社会で役に立つコミュニケーション力、これを目指そうと。これは特に経済学部では、先ほどから申し上げております、英語教育ですね。英語の力をつけさせよう、ということでI Pを中心に英語で経済学を教える。そういうようなことで「グローバル社会で役立つコミュニケーション力」というのを掲げました。要は英語が使えるのはあたりまえ、というような感覚で、むしろ重要なのは、何の話をするのか、ということになります。英語を使って何を相手に伝えるか。ただ単純に英語力をつけるということではなくて、英語で何を話すのかということも含めた上でのコミュニケーション能力ということで、設定したものです。それから

「明確な職業意識」。これも一人ひとりが職業とは何なのか、仕事とは一体何のかということを考えてもらうための仕掛けを作っていこう。これらを就業力の構成要素として取り組んでいこう、ということに致しました。

3. 取り組みの概要

まず学問へのリンクということで、初年次教育、体系的専門教育、数学教育、成績不振者の面談、こういうものがここにはいってきます。これは、言ってみると体系的な経済学教育を通して就業力を育成していく、醸成していくと言いますか、そういうことをはかっております。それから、世界へのリンク。これはIP（インターナショナルプログラム）が中心であります。英語による経済学教育に重点を置いた一つのリンクでございます。それから、仕事へのリンク、ということで進路の仮決め、本決め、それから企業関係者による講義、国内のインターンシップ。これは明確な職業意識を育てるため、という目標で3つのリンクを考えて、それぞれ重なっているところに様々なものをいれて考えてみたわけでありまして。仕事へのリンクと学問へのリンクの重なりが、「社会貢献と経済学」それから「キャリアのための個別学習マップ」。

そして、仕事へのリンクと世界へのリンクの重なりあっているところが、海外インターンシップと海外キャリア研修。そして、世界へのリンクと学問へのリンクで、先程ご紹介を致しました「JAS（Japan-Asia Studies Program）」ですね。留学生と一緒に経済学を学んでいく、というこういう概念図でございます。

こういう概念を元に、カリキュラムを検討し次の図のような形に致しました。経済学部では、必修科目が4科目です。1年生の前期の「基礎ゼミ」と「ミクロ経済学」。1年次の後期に「マクロ経済学」と「経済と歴史」という経済史系列のものが必修で入っております。問題になるのはキャリア科目等としているものです。「基礎ゼミ」で何を養おうとしているのかと言いますと、一つは、タイムマネジメント等の生活についての癖といいますか、きちんと姿勢を整えること。さらにライティングですね。きちんと日本語が書けること。もう一つはプレゼンテーションができる力をつけさせたい。これについては基礎ゼミで同一のシラバスで、統一の内容で行う、ということの基本原則にしております。ただ、それぞれ先生方の個性もありますので、全く1から10まで一緒というわけにはいきませんが、それぞれ一つの基本的路線に則って授業をやっていただく。そういう形式を取っております。そのなかで、ポートフォリオを利用していただきながら、セメスターの目標、それから4年間の目標、そういうものをこの基礎ゼミで、学生の皆さんに立てていただき、それに基づいて、様々な議論をしていく。それを踏まえた上で、今回改めて新設をいたします「社会貢献と経済学」で、現実に社会の中で仕事をしている方々の話しをきかせて頂いたり、実際に大学のなかでする学問が現実社会でどうのように生きていくのか、ということを学んでいただく。そういうようなことを「社会貢献と経済学」でやっていきたいと思っております。その上で、1年

生の終りの段階ですね、1年生の終わりから2年生にかけての段階で、この進路の仮決めのための仕掛けを作っていこう、と思っております。この仕掛けというのが、実際にはこの取り組みの中の就業力テストという形になっていきます。その他カリキュラムの専門科目の方と致しましては、コースの導入が2年の前期から始まります。コースというのは、2年の後期から選択するわけですが、3つのコースを設けてあります。「理論数量金融コース」、それから「現代日本経済コース」、「歴史・グローバル経済コース」、というこの3つのコースのなかから、それぞれ学生が選んで、そのなかで必修科目、選択必修科目等々を履修していく、という形になります。したがってコースを選んでいく際に、実際に自分の社会に出てからの姿を想定しながら、こういった科目を履修すればいいのか、どういう科目を履修すればどのような力が付くのか。そういうようなことをよく理解した上でこのコースを選ぶ。そのためのもうひとつの仕掛けが、マイマップということになります。それからこうした授業科目と並行して、「インターンシップ」のプログラムを設けております。一つ目が海外キャリア研修です。この先、若干変化するかもしれませんが、1年生の夏にシンガポールへ研修に参ります。1年生の最後の段階の春、2年生にかけての春休みに、カリフォルニア研修というのを設定しております。それ以外に、イギリスのマンチェスター大学を中心にした2ヶ月間のインターンシッププログラムを設けてあります。これは1ヶ月間語学研修を受け、1ヶ月間実際にイギリスの各企業等でインターンシップ等を行うというものです。それぞれ希望する学生さんに参加して頂きながら、実体験で様々な海外の企業、あるいは海外の公共機関を、実際に自分の目で見てもらって、自分の職業意識につなげていく、そういうようなシステムを作り上げております。国内インターンシップについては、キャリアセンター中心に設定しておりますインターンシッププログラムに則って、経済学部の学生もそれに積極的に参加していく、というような形になっています。



4. 取り組みの詳細取り組みの詳細になります。

一つめは、これまでも触れて参りました企業関係者との共同で作る科目、「社会貢献と経済学」の新設ということでございます。

学習内容は、社会の中で実際に、大学で学ぶ経済学がどのように役に立つのか。それを具体的な事例を通して学習しよう、ということを目指しております。経済学にもいろいろな科目がございます。細分化されておまして、理論経済学からはじまって、統計学もある、それから日本経済論、あるいは財政学、またいろいろな国際関係のものというように、様々なものがありますが、その細分化された科目、それ自体がどのような形で実際に社会の中で役に立つのか、ということに結び付けていきたい。そのきっかけにしたい、というのがこの「社会貢献と経済学」という科目になります。特に2年次のコース選択ですね。先程示しました3つのコースですが、その導入として経済学部専門科目がどのように仕事と結びつくのか。いわゆる学問と仕事のリンク、これをきちっと学んでもらいたい、というのがこの狙いでございます。その特徴でございますが、1年次の後期の科目として設定したい。

この段階で設定をしておかないと2年生のはじめの段階で、いわゆる先程申しましたエアポケットみたいなところに学生が行ってしまうと、だいぶ出遅れるというのですね。キャリアセンターの方々に聞きますと。したがってそういう意識を持ち続けていられるように、1年の後期にこれを設定していきたいと考えています。追加的プログラムとしては、受講学生を対象としてOB・OG懇談会を開催していく。いろいろな企業で働いている、先輩の話を知りたい。本学の学生は、先輩たちのお話が一番納得できるようですね。我々がいろいろなことを言ってもなかなか聞いてもらえないのですけれども、OB が来て一言いうと、「ああ、そうですか〜!」、ということで非常に素直に聞いてくれるのですね。ですから本当にできればOB・OG を中心とした何かをやりたいという、そのような印象を持ってしまうわけですが、OB・OG 懇談会も開催していきたい。さらに、これはカリキュラムの編成変えの時にしかできないのですが、何とかこの科目、「社会貢献と経済学」を必修化できないかと考えています。必修化の方向へ持っていかたいと思っております。今後のカリキュラムの編成の段階で議論を詰めていきたいと思っております。2番目ですけれども、2年次の進路の仮決めと希望進路調査、就業力テストの導入ということで、進路の仮決めを2年次の4月にしてもらう、ということです。

その進路の仮決めをしてもらって学生を仕事にリンクさせていく。すなわち学生の一人ひとりが仕事というものを念頭に置きつつ、実際に授業を受けていく。そういう方向に持っていかたいと考えております。2年次の進路の仮決めと、希望進路調査、就業力テストというものがどういうものなのかといいますが、まずは、希望進路調査。今の2年生の4月の段階で、一人ひとりの学生がどういう方向に行こうと考えているのか。企業への就職なのか、公務員なのか、あるいは小中学校・高等学校の教員を目指すのか、

大学院の進学なのか。こういう中から、先ず自分がどうありたいのかという希望をとる。これが一番重要で、この時の調査によってその後の学び方が変わってくるだろう、と思っております。それから就業力測定テストですが、これは「一般常識と民間・公務員・教員のそれぞれの採用試験から抽出・混在された形式で出題されるテスト」です。このテストは「国内諸機関の実施調査、サンプル調査を基に新たに開発する」という事になっているのですが、言うのは簡単ですけれど、実際に理想的な形にするのは非常に難しい。これが一番頭を悩ましているところです。どうしてかといいますと、いわゆる就職試験のためのSPIの練習をするということでは全然意味はないし、自分がどういう職業に向いているのか、自分がどういう適性なのかということ为先ず認識しなければならない。そうなりますと、実際にはいろいろな企業の、こういうテストをやっている会社の方々から、様々なプレゼンをお聞きしたのですが、大半が自己申告型なのです。自分がどういう人間なのか。こういう場合には自分はこうする、というようなことを、自分で、自己認識で、自己申告で答えて、その上で、あなたはこういう適性ですね、というのが出てくる形のもので、ですからこの自己申告だけで本当にその人の向いている職業が限定できるのかと。方向性が決められるのか。こういう疑問が生じます。もうひとつは、これが一番多いと思えるのですが、「自分はこうなりたい」、「こういうふうにやっていきたい」と願っていても、やっていくには当然必要な力があります。その必要な力を自分で認識していない。夢は大きく、力は無い。力が無いのに夢は大きい、というやつですね。「私は国際的な機関で働きたいんです！」と言いながらあまり英語ができないとかですね、そういうのを客観的に示して、本人がどの程度の力なのか、ということ本人が自覚しない限りは、どうにもならない。一つは自己申告の形で適性を判断する、ということで良いのですけれども、それ以外に、客観的に今の自分の力がどの程度あるのか、という側面からも測定できるテストはないか。そういうことで、いろいろと探したのですけれども、なかなかそれが見つかりません。見つからないのだからしょうがない、自分達で作るか、という話しになるのですが、これがまた作るということになりますと、過去のいろいろなサンプルとか、過去のデータが無いと決して上手くはまっていきませんので、そういうことも踏まえつつ、今ちょっとこの就業力測定テストというのをどういう形で、どういうものを使おうかと悩んでおまして、今年度はパイロットケースで、1年生にやってもらおう、と考えております。1年生の、来年1月の期末試験の終わりぐらいに、実際に実施して、そのサンプルを見て、どういう形にしようか、ということは今後、来年度以降、新たな就業力測定テストというのを考えていきたいと思っております。これが今回のGPにおける、大きな一つの目玉なのですけれども、その上で自分の現状を認識し、その認識した上で自分の欠けている力をどういうふうにつけていくのか。どのようなことをやっていけばいいのか、ということ一人ひとりに自覚をしてもらおう。そういうシステム、そういう仕掛けになっております。今度は3番目の、「キャリアのための個別学習マップの開発」ということになりますが、就

業力測定テストをした上で、カリキュラムチェックリスト（CCL）を見る。そして、今自分にかけている力はどのカリキュラム、つまりどの授業を取ればつくのか、その力をつけることができるのか。それを考えてもらいたい。そしてその上で自分に無い力をつけるためには、2年の後期にはこういう科目を取り、3年生のときにはこういうような授業を受けていくのだ、という自分の、自分なりの、自分独自のこの残りの学生生活のための一つの方向決めをする。そのことを「マイマップ」と称するわけですがけれども、この「マイマップ」を作ってもらおう。このことを「学問・世界へリンク」という言葉で現わしているわけです。キャリアのための個別学習マップの開発については、先程から申し上げておりますとおり、学部の全専門科目についてカリキュラムチェックリストを作成致しました。このカリキュラムチェックリストを基に、それぞれの職業に就くにはどのような科目を選択すべきかを明示した、キャリアのための個別学習マップ。これを作成いたします。これが3番目の取り組みになります。すなわち、それを少し概念的なまとめに致しますと、先ずカリキュラムチェックリストが作成されます。実際にはもう作成されました。ただしこれはその年その年にいろいろな形で手をくわえていかななくてははいけませんし、学部全体のカリキュラムチェックリストを見て、いろいろな力があるのですけれども、その力を全部つけさせるだけのカリキュラムになっているのかどうか、というのもチェックしなければならないと思います。言ってみれば教員の意識改革、FDですね。これをもたらしもので、それぞれが自分の授業でどういう力をつけてもらえるのか、というのを考えるための一つの手立てになっております。

それから「カリキュラムマップ」となっていきます。カリキュラムの全体像、学部の目指す人材像をカリキュラムマップと言っているのですけれども、実際には「カリキュラムポリシー」ですね。いわゆる3つのポリシーをきちんと示して、3つのポリシーに基づいてさらに「マイマップ」、すなわち個々の学生の希望進路、現在の実力に応じた実習プラン、こういうのを一つひとつ考えてもらおうと。考えていくためのこの一つの目安と言いますか、考えていくための材料が、「進路仮決め」とうものになる。そして「進路希望調査」、「就業力測定テスト」、ということになっていきます。実際に経済学部で使っているカリキュラムチェックリストは、上の段に「学士力」、「細目」。右側には科目名が示されており、どういう力がつくのか、ということで、「経済理論の基礎を習得する」、「学習した理論を使って現実の経済事象を考察できる能力を培う」、という箇所に丸印が記されて、この科目を履修すれば付けられる力が示される。そして細目のところには具体的な力の中身、経済学部の教育目標に合わせた中身が掲げられています。たとえば、経済学部の教育目標、「体系的な経済学教育を通して問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する」。その中で一番が知識と理解、二番が汎用的技能、こういうようなことで、この中身が一番の括弧に、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」。その中で細目は、「現代世界の社会問題について適切な知

識を持っている」、「現代日本の社会問題について適切な知識を持っている」、「人類の文化歴史について適切な知識を持っている」、というようなものが並んでまいります。その並んでいるところの中で、この科目を取ればどういう力が付くのか、ということで、それぞれ丸印と二重丸を付けてあります。ですからこの科目を履修して単位を取ればこういうような力が付くという。これがカリキュラムチェックリストで、このカリキュラムチェックリストが全科目にわたって示されているわけですね。これを基にして、学生自身が、先程申しました進路の仮決め、いわゆる就業力測定テスト等で出てきた結果と、自分が目指すべき様々な職業に必要な力と、そのギャップをその授業の中でカリキュラムチェックリストを使って埋めていく。こういうような形ですね。これを狙っております。このカリキュラムチェックリストは非常に時間がかかりましたけれど、自分達の授業がどのような中身になるのか、実際どういう力を付けさせれば良いのか、それを考えるためには非常に役に立ちました。経済学部の方には本当に時間をかけて作って頂きましたけれども、やっぱり作ってみて良かったなと思っております。取り組みの4番目の海外キャリア研修の実施、及び国内海外インターンシップの拡充、ということですが、海外キャリア研修をスタートさせます。これは明年2月の末から3月にかけてのカリフォルニア研修から、キャリア研修と、きちんとした形でキャリアのための研修ということでリスタートしていきたいと思っております。つまりこれはIPの研修を更に発展させたものであります。それから、現在マンチェスターでやっている海外インターンシップですけれども、もう少しいろいろな形で考えられないだろうか、もうちょっと拡充できないだろうか、あるいはもうちょっといい形のインターンシップはないだろうか、様々なところで調査をしております。その中でいいものが出てくれば、海外インターンシップのなかにそのプログラムを取り入れていきたいと考えております。どうも日本のインターンシップと海外のインターンシップはかなり違うようでございまして、日本のインターンシップというのは、なんだかお客さんのように、学生がアルバイトのように少しだけ仕事をかじるようだというのですが、海外のインターンシップは、本当に一人前の社会人として同じようなことを同じようにさせるといわけですね、返ってきた学生さんたちに聞きますと。だからこの海外インターンシップというのはものすごく力が付く。英語の力も無ければならないわけですが、社会人としての自覚といいますか、仕事に対する責任といいますか、それは国内のインターンシップとはかなり違う。こういうようなことを学生さんたちは感想として教えてくれております。海外キャリア研修というのは、ただ単純に海外に行くというわけではなくて、約25時間の事前研修を実施しております。グループリサーチを実施して訪問先の企業や訪問先の国の経済事情を学習する。そしてその上で一人ひとりが英語でのプレゼンテーションを実施致します。出発直前には、1泊2日の合宿もやっております。こういう形できちんとした準備をした上で海外に行くということです。現地での研修は、「グローバルな視野で自らの進路を考える機会を与える」、「企業訪問等で訪問国の経済事情を体感する」、「現地で働く卒

業生によるキャリア研修で、社会で必要とされる能力とは何かを学ぶ」。そして、「学んだ英語でコミュニケーション能力を発揮する」。このような形で、現地で様々な企業に行かせていただいて、そこでの説明を聞いて、英語でのクエスチョンアンドアンサーですね、色々な討論をするという形をとっております。帰国後に、事後学習として研修で感じたものを英語でまとめてリサーチペーパーを作成し提出する。このような形でキャリア研修を完結させていくというシステムをとっております。これが海外キャリア研修の概要でございますが、さらに国内インターンシップでは単位化されているインターンシップの受講者を拡充していきたい。

2006年から実施している海外インターンシップ、このマンチェスターのインターンシップがもう少しなんとかならないかな、というようにも思っております。ただこのマンチェスター・インターンシップもかなり厳しいもので、現地での研修と就業体験がそれぞれ4週間ございますので、非常に力が付くプログラムです。このマンチェスター・インターンシッププログラムというのは、実際には他学部の学生のみなさんにも参加して頂いております、今年の場合は、半分が経済学部で、半分が他学部の学生さんでございます。そういう意味で、いろいろな形で他学部の学生の皆さんにも開放しておりますのでぜひとも利用して頂ければ、というふうに思っております。

さて既存の取り組みの拡充と数値目標です。これまでの取り組みで、学問へのリンクということで体系的な経済学の専門教育、それから初年次の導入科目ですね、基礎ゼミを中心とするものです。また、数的処理能力の科目を設定し、アカデミックスキルの教育を充実させる。成績不振者の面談による留年者の減少を計り、特に3年生になりますと後期にゼミ生対抗研究発表大会というのをやっております、これがまた学生の皆さんがこの研究発表大会に燃えてですね、だいたい3年生のはじめくらいからゼミの中で、とにかくいろいろな研究をもちよって、ゼミのなかでまずコンペティションがある。ゼミのコンペティションで勝った人たちが学部発表大会に出てくる。というような形で、学生の皆さん、一所懸命に自発的な勉強をしております。これはなかなか力を付けるのに良いシステムかな、と思っております。学問へのリンクでこれまで取り組んできたことでございます。数値目標はいろいろな形で履修率の向上等を示してあります。

世界へのリンクにおいては、英語力を伸ばして、国際社会で高い水準で読み書き語る、グローバルリテラシーをもった人材を養成したい。英語で経済学を学ぶIP、海外企業を訪問する海外研修、海外インターンシップを展開する。それから学部として英語圏の短期留学生を積極的に受け入れて、留学生と日本アジアの経済を学ぶ、JASを実施する。これがこれまで取り組んできたものであります。これに加えて、これまでの取り組みについて、さらに数値目標を掲げてみました。特に、卒業生の中で、TOEIC900点以上をなんと25人以上輩出したい。こう思っております。800点以上は50人以上だと、こういう決意で取り組もうと思っております。それから、JASを履修する留学生の数を50人以上にしたい。海外インターンシップの参加者を25人以上、海外キャリア研修の

参加を100人以上、というような形で数値目標を設定いたしました。

3番目の仕事へのリンクですが、学生生活ポートフォリオを経済学部は2009年からずっと導入しております。特に1年次の必修科目である基礎ゼミで4年間のキャリア計画を作ってもらって、各セメスターで各週の生活の計画・振り返りを行ってまいりました。次年度も積極的に使って、自分のタイムマネジメント、あるいは自分のキャリアの計画、というものに活用できたらな、というように思っております。更に、キャリア科目への参加、学生アシスタント、いわゆるSAですね。こういう人たちをいろいろな形で活用していきたい。特にSAは後輩の面倒を見るのですが、後輩の面倒を見ることによって付く力というのがあって、SAの人たちの力が伸びている、というところに私達、非常に喜びを感じております。また企業関係者を交えての講義の実施ということで、現在も「世界経済事情」、「Business and Japanese People」、ということで、国際社会貢献センターの先生たちに教えていただいております。この機関は、企業を退職された方々で構成されており、かなり専門的知識を持った方々を中心としたものでありますが、そこで具体的な実社会の話聞いてもらっております。

それから、「資本市場と証券投資」では野村証券から講師をお招きしています。実は今月、科目を履修している人たちが、実際に野村証券の現場を見学するというので、これまでは野村証券の八王子支店の見学だけだったのですが、今年はいろいろと助けていただきまして、野村証券の本社に見学へ行きました。それがよかったようで、学生達からもたくさんの質問が出て、もう時間が無いから「まあまあちょっともう質問は終わりだよ」、というくらいに質問が出たようです。ディーリングルームも見せていただき、学生の皆さんは喜んで帰ってまいりました。野村証券の担当者の方からも、非常にいい学生だ。こんないい学生だったら、これからも見学させたい。実は野村証券の本社を見学するというのは、創価大学の皆さんが初めてだった。初めての見学でこんなに素晴らしいことになった、と言って野村証券の関係者の方が田代理事長のところに手紙を下されたそうです。ですからこれは本当に学生たちにとってもプラスになってよかったなあ、と思っております。そういうことが実際にあるとすごく刺激になりますよね。他の専門科目でもそうしたゲストスピーカーを招いて実際に実社会の話聞いてもらうという機会を、もう少し作っていただけたらな、と思っております。数値目標はこのような形でございます。

実施体制と評価方法であります。本学では学長の元に、現在は全学キャリア委員会ができておまして、全学キャリア委員会の元で様々な就職関係、あるいはキャリア関係についての議論がなされており、多分各学部の先生方もお聞き及びだと思っております。様々な具体的な数値目標を決めようと、というようなことが今全学で始まっております。キャリアセンターとも連携を取りながら、就業力GPを具体的に実施、実働していくのが経済学部のキャリア委員会ということになります。7名の先生方に参加して頂きまして、ここで様々な検討を加えております。先程申し上げました、仕事のための就業力の

テストとか、適性検査のテストなどについても、いろいろと検討を加えているところでございます。事務主幹は経済学部の事務室にやっていただいておりますし、キャリアセンターの3名の職員の方々もこのキャリア委員会に参加していただき、具体的な方策を相互に交換をしながら、進めていく方向になっております。最終的には外部評価委員の方々を決めさせていただいて、外部評価委員の評価を受けたい、というように思っております。

評価方法、最終報告の作成でございますが、就職率の改善と取り組み全体の数値目標の達成状況の検討。それから、更なる改善策を作成し、学外に公表していきたい。いわゆるPDCAサイクルですね。その循環をきちんとさせていきたい。取り組み期間終了後も、外部評価委員の評価は継続して受けてまいりたいと思います。そして更に、学生の学部教育改革に取り組んでまいりたいと思います。いろいろなカリキュラムの問題、その他さまざまな問題を経済学部の教員一丸となって議論をして、改革に取り組んでいく決意でおります。

評価方法のもう一つですが、これは統計的な分析と追跡調査も実施したいと思っております。2015年3月に卒業を予定している方々を対象に、就業力の獲得に関するアンケート調査を行おうと考えております。つまり今年度の1年生ですね。今年の1年生から実際にはパイロットケースを始めていきますので、その人たちがどういう形になっていったのかという追跡調査をしていきたい、と思っております。この追跡調査というのは、卒業段階でのアンケートも行うわけですが、できれば卒業した後も、社会でどのような活躍をしているのか、何をやっているのか、というのもできれば調査をしていきたいと考えております。外部評価委員につきましては他大学関係者の2名、それから企業関係者2名をお願いをしようと思っております。就業力育成についての視点をより重視した外部評価を受けてまいりたいと思っております。

5. 今後のスケジュール

今後のスケジュールを最後にお示ししたいと思います。2010年度、これは今年度ですけれども、今年度の1月にサンプルテストを実施致します。それから、カリキュラムチェックリストの作成。作成は既に行われているのですが、その見直しですね。見直しのために先進的な事例を持っている大学、研究機関等の視察を行ってまいりたい。それから来年度、2011年度は「社会貢献と経済学」、これを開講したい。さらに就業力測定テストのパイロット版を実施したい、と思っております。また高等教育の専門家と各教員の面談、及びカリキュラムチェックリストの改定、マイマップシステムの開発などを予定しております。2012年度にはこの10年度・11年度でやってきたことをより具体的に実施していくということで、進路の仮決めのための就業力測定テストを実施したい。ここまでに、先程お話ししましたように、私達が不安に思っていたり、なかなか上手くいかない、と思っていることが、なんとかクリアでき、きちんとした就業力テスト

ができればいいな、と思っております。その上で、マイマップシステムの導入を図ってまいりたい。2013年度には中間報告を公表しまして、仮決め制度を全学に展開できればと考えております。

就職問題、就業力問題というのは、なにも経済学部に限った問題ではございませんので、これについては全学に展開をする。そもそも就業力GPというのは元々やはり全学で取り組むもの、ということで想定されているようで、今回は経済学部がパイロットケースということで始めている訳で、経済学部でやってうまくいった点、上手くいかなかった点、こういうのを見直して全学に展開をさせていただけたらな、と思っております。そのあと14年度・15年度には就職状況の総括と最終報告の公表ということで、この全体の取り組みを終結、まとめていきたいと思っております。

最後にお知らせですけれども、就業力GPでフォーラムを考えております。就業力を考えることで来年1月19日の2時半から、これは8階の会議室で外部から講師を招いて、就業力に関する講演をお聞きしたい。講演というか研究会というか、勉強会にできたらな、と思っております。この開催の意義は、ここまで使ってきた「就業力」という用語ですけれども、実際に人によって全然捉え方とかイメージが違うのですよね。学部によっても違うと思います。そういう意味で、みなさんで就業力という概念を共有しようではないか、どういう事が就業力なのか、これをまずしっかり踏まえた上で、来年度からの取り組みを進めていきたいと思っております。できうる限り、参加者との意見交換を行って創価大学としての就業力とは何かを考える場としてまいりたい、と思っております。

6. 終わりに

早口で説明してまいりましたが、以上で経済学部の取り組みの報告とさせていただきますが、最後に一つ。実際にこの就業力GPは始まったのですけれども、ちょっとお耳に入っている方もいらっしゃると思いますが、新政権の最も目玉である仕分け事業のなかで、就業力GPが廃止ということになっているのですが、文部科学省の方々にお聞きしますと、何とか復活させる、ということで取り組んでいらっしゃるようです。就業力GPもいろいろとスイングをしている最中ですが、我々としてはそれに関わりなく、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。大変にありがとうございました。

創価大学 Discover your potential
 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」
**学問・世界・仕事への
 リンクが育む就業力**
 —専門教育と就業力をつなげるカリキュラム
 ならびに個別学習マップの構築—
 創価大学 経済学部
 学部長 神立 孝一

本日の発表内容

- 就業力GP採択の報告
- 本学部の掲げる就業力とは
- 取り組みの概要
- 取り組みの詳細
- 今後のスケジュール

就業力GP採択の報告

これまでの経済学部教育改革

- 2007年度
特色GP採択
「グローバル化時代の経済学教育」
- 学部教育目標を掲げ、カリキュラム・チェック・リスト(CCL)を作成
- 学部主催の海外研修を3研修体制に拡充
- 経済学部教育ラウンジ(FEEL)の開設
- 英語教員(非常勤)の増員、FD活動の推進、学生アシスタント(SA)の強化
- 英語で留学生と学ぶJAS(Japan-Asia Studies)の開講
- 外部評価制度の確立

文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」

**学問・世界・仕事への
 リンクが育む就業力**

—専門教育と就業力をつなげるカリキュラム
 マップならびに個別学習マップの構築—

創価大学経済学部:就業力GP採択

学部教育と連動するキャリア教育の実践
 ・本格的に就業力育成に力を入れていく

創価大学経済学部: 就業力GP探択 創価大学

具体的な新規取組

- ・企業関係者との協同で作る実学科目「社会貢献と経済学」(1年次後期) 新設
- ・2年次の「進路の仮決め」と「希望進路調査・就業力測定テスト」の導入
- ・「キャリアのための個別学習マップ」(My Map) の開発
- ・海外キャリア研修の実施および国内・海外インターンシップの拡充

本学部の掲げる就業力とは



今、なぜ「就業力」か 創価大学

- ・問題の背景
 - 就職問題
 - 雇用システムの変化と成立基盤の動揺
 - 新しい大学教育のあり方が模索

今、なぜ「就業力」か 創価大学

社会の変容に対して

- ・「大学と職業の接続の在り方を改善することであり、端的にそれは大学教育の職業的意義を向上」させることが重要
- ・日本学術会議「大学と職業の接続の在り方」

大学は学生の質保証に責任を持つ

- ・多様性と標準性の調和
- ・文部科学省「学士課程教育の構築に向けて(答申)」

創価大学の建学の精神 創価大学

人間教育の最高学府たれ

- ・ Be the highest seat of learning for humanistic education

新しき大文化建設の揺籃たれ

- ・ Be the cradle of a new culture

人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ

- ・ Be a fortress for the peace of humankind

経済学部の教育目標と就業力 創価大学

就業力の構成要素

問題発見・ 解決能力と 論理的 思考力	グローバル 社会で役立つ、 コミュニケーション 力	明確な 職業意識
------------------------------	------------------------------------	-------------



取組①企業関係者との協同で作る科目
「社会貢献と経済学」の新設

学習内容

- 社会の中で経済学がどのように役立つかを具体的な事例を通して学習する
- 2年次のコース選択の導入として、経済学部の専門科目がどのように仕事と結びつくか(学問と仕事のリンク)を学ぶ

取組①企業関係者との協同で作る科目
「社会貢献と経済学」の新設

特徴

- 1年次後期の科目
- 追加的プログラムとして受講学生を対象としてOB・OG懇談会を開催
- 科目の必修化を目指す



取組② 2年次の「進路の仮決め」と「希望進路調査・就業力測定テスト」の導入

希望進路調査

- 企業就職、公務員、小中学校・高校教員、大学院進学から一つ選択

就業力測定テスト

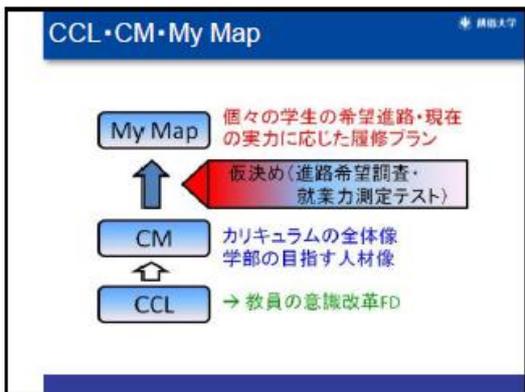
- 一般常識と民間・公務員・教員のそれぞれの採用試験から抽出・混在された形式で出題される
- このテストは国内諸機関の実地調査、サンプル調査をもとに新たに開発する



取組③:「キャリアのための個別学習マップ(My Map)」の開発

学部の全専門科目についてCCLを作成

CCLをもとにそれぞれの職業に就くには、どのような科目を選択すべきかを明示した「キャリアのための個別学習マップ」(My Map)を作成する



取組③: CCL(カリキュラムチェックリスト)とは

科目名	単位数	科目	17年度調査	
			履修率	満足度
1 基礎・情報	10	基礎的・応用的知識・技能の習得	○	○
2 専門的知識	14	専門的知識の習得	○	○
	14	専門的知識の習得	○	○
3 実践的知識	10	実践的知識の習得	○	○
	10	実践的知識の習得	○	○
4 国際的知識	10	国際的知識の習得	○	○
	10	国際的知識の習得	○	○
5 職業的知識	10	職業的知識の習得	○	○
	10	職業的知識の習得	○	○

取組④: 海外キャリア研修の実施および国内・海外インターンシップの拡充

海外キャリア研修をスタート

- IP海外研修をさらに発展

国内・海外インターンシップの受け入れ企業を拡充

取組④: 海外キャリア研修の概要

約25時間事前研修を実施

グループリサーチを実施(訪問先企業・訪問地の経済事情を学習)
英語でのプレゼンテーションを実施(出席履歴には含めず実施)

現地での研修

- グローバルな視点で自らの進路考える機会を与える
- 企業訪問等で訪問地の経済事情を体感する
- 現地で働く企業におけるキャリア研修で社会で必要とされる能力とは何かを学ぶ
- 学んだ英語でコミュニケーション能力を鍛錬する

事後学習

- 帰国後は、研修で感じたことを英語でまとめ、リサーチ・レポートを作成し、提出する

取組④: 国内・海外インターンシップの概要

国内インターンシップ

- 単位化されているインターンシップの受講者数を拡充する

海外インターンシップ

- 経済学部では、2006年よりイギリス・マンチェスター大学と提携し、海外インターンシップを実施している
- 現地での研修と就労体験がそれぞれ4週間(計8週間)のプログラムであり、他学部へも開放している

既存の取組の拡充および数値目標

既存の取組の拡充および数値目標
拡充①: 学問へのリンク

これまでの取組

- 体系的な経済学専門教育
- 初年次導入教育
- 数的処理能力科目
- アカデミック・スキル教育の充実
- 成績不振者面談による留年者減少
- 3年次後期「ゼミ生対抗研究発表大会」

既存の取組の拡充および数値目標
拡充①: 学問へのリンク

【数値目標】

- ・マイクロ・マクロ中級科目の履修率80%以上
- ・経済数学入門履修者80%以上
- ・統計関連科目履修者60%以上
- ・数学プレイスメントテストの高校生レベル以上75%以上
- ・ゼミ対抗論文発表大会等の参加率80%以上
- ・成績不振者の割合10%以下

既存の取組の拡充および数値目標
拡充②:世界へのリンク

林田大学

これまでの取組

- 英語力を伸ばし国際社会で、高い水準で読み、書き、語る「グローバル・リテラシー(国際対話能力)」をもった人材を育成
- 英語で経済学を学ぶIP (International Program)、海外企業を訪問する海外研修、海外インターンシップを展開
- 学部として英語圏の短期留学生を積極的に受け入れ、留学生と日本・アジアの経済を学ぶJAS(Japan-Asia Studies)を実施

既存の取組の拡充および数値目標
拡充②:世界へのリンク

林田大学

【数値目標】

- 卒業生のうちTOEIC900点以上25人以上
- 800点以上(900点以上を含む)50人以上
- JASを履修する留学生数50人以上
- 海外インターンシップの参加者25人以上
- 海外キャリア研修の参加者100人以上

既存の取組の拡充および数値目標
拡充③:仕事へのリンク

林田大学

「学生生活ポートフォリオ」を経済学部は、2009年から(全学は2010年から)実施

- 1年次の必修科目「基礎ゼミ」で4年後のキャリア計画を作成
- 各セメスター、各週の生活の計画、振り返りを行ってきた
- 今回の取組の下地として積極的に活用する

既存の取組の拡充および数値目標
拡充③:仕事へのリンク

林田大学

キャリア科目への参加

- 国内・海外のインターンシップ
- 海外キャリア研修の実施と単位化をさらに進めていく

学生アシスタント

- アドバイスと面談の質の向上に努める

既存の取組の拡充および数値目標
拡充③:仕事へのリンク

林田大学

企業関係者を交えた講義の実施

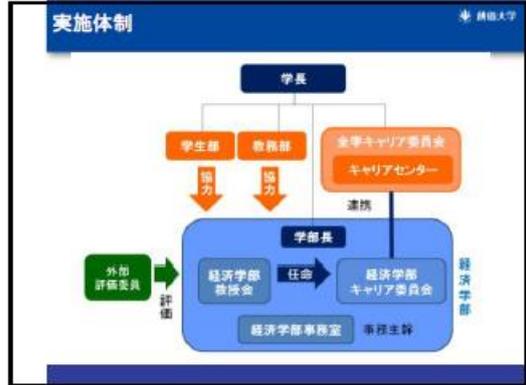
- オムニバス形式の仕事と経済学をリンクさせる授業を展開してきた
- 「世界経済事情」「Business and Japanese People」では国際社会貢献センター(ABIC)から、「資本市場と証券投資」では野村証券から講師を招いている
- 他の専門科目でも、企業関係者をゲストスピーカーとして招聘していく

既存の取組の拡充および数値目標
拡充③:仕事へのリンク

林田大学

【数値目標】

- 3年次夏期休業終了時までのインターンシップ・海外キャリア研修参加率 50%以上
- キャリア科目の履修率80%以上
- 企業関係者をゲストに迎える講義(財政学、金融論など)専門科目で5講義以上

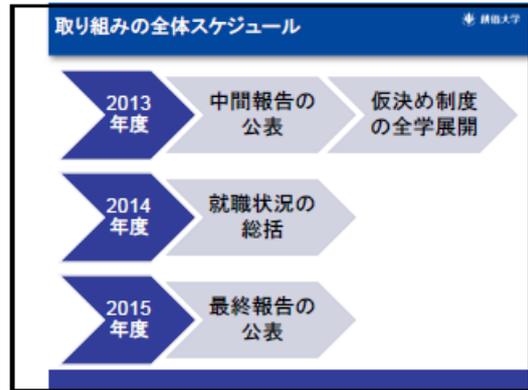
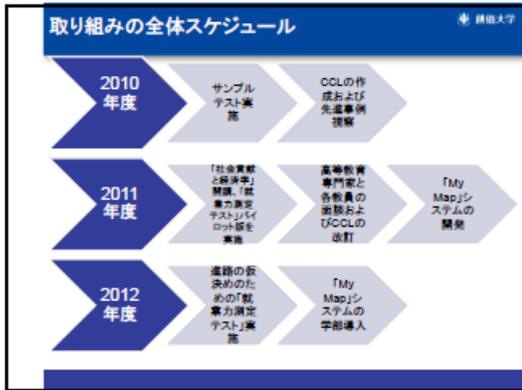


- 評価方法**
- 最終報告の作成(最終年度)
 - 就職率改善と取組全体の数値目標の達成状況の検討
 - 更なる改善策を策定し、学外に公表
 - 取組期間終了後も、外部評価委員の評価は継続して受ける
 - さらに学生の学部教育改革に取り組んでいく

- 評価方法**
- 統計的な分析および追跡調査の実施
 - 2015年3月卒業予定者を対象に、就業力の獲得に関するアンケート調査を行う

- 評価方法**
- 外部評価委員
 - 他大学の関係者2名
 - 企業関係者2名
 - 就業力育成についての観点をより重視した外部評価を受けていく





お知らせ 創価大学

就業力GPフォーラム
 —「就業力」を考える—
 2010年1月19日(水) 14:30
 文系A棟 8階会議室

☆外部より講師を招き、「就業力」に関する講演
 ☆参加者との意見交換を行い、創価大学としての「就業力」とは何かを考える場として参ります。

Discover your potential
 自分力の発見



⑰あなたは4年間で何冊の本を読みましたか。(授業における指定教科書は含まない)

1. 200冊以上 2. 100冊以上200冊未満 3. 50冊以上100冊未満
4. 25冊以上50冊未満 5. 10冊以上25冊未満 6. 10冊未満

⑱4年間を通じて平均すると授業以外における1日の学習時間はどれくらいでしたか。

1. 2時間以上 2. 1時間以上2時間未満 3. 30分以上1時間未満 4. 30分未満

⑲あなたは専門ゼミに入っていましたか。

1. 入っていた 2. 入っていたが途中でやめた 3. 入らなかった

⑳あなたが学生時代にもっとも力を注いだことは何ですか。

1. 勉学 2. クラブ活動 3. アルバイト 4. 課外活動 5. その他

㉑4年間で寮生活を経験した方は、あてはまるものすべて○をつけてください。

1. 1年間 2. 2年間以上 3. そのほか留学先などで経験

㉒英語力について各試験の最高取得点、その他の資格、およびその取得時期について教えてください。

	取得時期
TOEIC _____点	1. 1年次 2. 2年次 3. 3年次 4. 4年次以降 5. 大学入 学前
TOEFL ITP _____点	1. 1年次 2. 2年次 3. 3年次 4. 4年次以降 5. 大学入 学前
TOEFL iBT _____点	1. 1年次 2. 2年次 3. 3年次 4. 4年次以降 5. 大学入 学前
その他	
資格名: _____	1. 1年次 2. 2年次 3. 3年次 4. 4年次以降 5. 大学入 学前

㉓教員免許について教えてください。

1. 高校または中学の免許を取得 2. 小学校の免許を取得
3. 取得していないが今後いずれかの免許を取得する予定 4. 取得予定なし

㉔以下のそれぞれの項目について、大学生活でどの程度力をつけることができましたか？

- 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

- 数量的・統計的データを正確に理解することができる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

- 日本・世界の経済・社会的な知識を、入手し活用することができる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

- 日本語および英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

- 世界の多様性、社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

- 自らの行動を律し、他者と協力しながら、目的を計画的に実現できる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

- 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる
 1. 大いに力をつけることができた
 2. 多少力をつけることができた
 3. あまり力をつけられなかった
 4. まったく力をつけられてなかった

4. 就職について

㊦ 就職・進学する方は、就職先の業界を教えてください。

1. 食品・飲料・消費財業界/医薬品業界
2. 電機業界/自動車業界
3. 原材料・エネルギー業界建設・重機業界
4. 金融、コンサル、不動産業界
5. 流通・小売業界
6. 運輸・商社業界
7. 情報・マスコミ
8. 旅行・ホテル・人材・サービス
9. 公務員
10. 専門資格（法曹界・会計士・税理士）
11. 教員

12. 大学院進学 13. 専門学校進学（通教含む） 14. 芸能・文芸・スポーツ 15. その他

②⑥ インターンシップに参加しましたか？

大学紹介 10日間(80時間)以上 _____回

大学紹介 10日間(80時間)未満 _____回

公募 10日間(80時間)以上 _____回

公募 10日間(80時間)未満 _____回

②⑦ 就活合宿へ参加しましたか。

1. 参加した 2. 参加していない

②⑧ キャリアビジョンIを履修しましたか。

1. 履修した 2. 履修していない

②⑨ グローバル・リーダー・カレッジ（GLC）に参加しましたか。

1. 参加した 2. 参加していない

③⑩ 最終WEBエントリー数を教えてください。

1. 201社以上	2. 181社～200社	3. 161社～180社	4. 141社～160社
5. 121社～140社	6. 101社～120社	7. 81社～100社	8. 61社～80社
9. 41社～60社	10. 21社～40社	11. 20社以下	

③⑪ ES提出数を教えてください。

1. 101社以上	2. 91社～100社	3. 81社～90社	4. 71社～80社
5. 61社～70社	6. 51社～60社	7. 41社～50社	8. 31社～40社
9. 21社～30社	10. 11社～20社	11. 10社以下	

③⑫ ES通過数を教えてください。

15社以上	14社	13社	12社	11社	10社	9社	8社
7社	6社	5社	4社	3社	2社	1社	0社

③⑬ 就職活動を振り返って、今後大学が力を入れてほしいことがあればお書きください。

その他ご意見等があればご自由にお書きください。

XII-1. 経済学部キャリア委員会実施日程

- 第1回経済学部キャリア委員会 2010年11月 1日(月)16:40
第2回経済学部キャリア委員会 2010年11月 8日(月)16:40
第3回経済学部キャリア委員会 2010年11月15日(月)16:45
第4回経済学部キャリア委員会 2010年11月29日(月)16:45
第5回経済学部キャリア委員会 2010年12月 6日(月)16:40
全学FDフォーラム(取組の紹介) 2010年12月11日(土)13:00
第6回経済学部キャリア委員会 2010年12月21日(火)16:40
第7回経済学部キャリア委員会 2011年 1月 6日(木)16:40
就業力GPフォーラム(学内関係者対象) 2011年 1月19日(水)14:30
第1回全学キャリア委員会 2011年 1月19日(水)16:40
第8回経済学部キャリア委員会 2011年 1月18日(火)18:10
就業力テスト(サンプル版)実施 2011年 1月24日(月)16:10
第9回経済学部キャリア委員会 2011年 2月 2日(水)10:00
第10回経済学部キャリア委員会 2011年 2月 3日(木)16:00
第11回経済学部キャリア委員会 2011年 2月25日(金)13:00
カナダ視察 2011年3月7日(月) - 13日(日) *諸大学視察・インターンシップ先拡大
第12回経済学部キャリア委員会 2011年 3月16日(水)13:00
第13回経済学部キャリア委員会 2011年 5月 2日(月)10:00
経済学部基礎ゼミSAキャリア研修 2011年 5月2日(月)13:00
就業力テスト個人レポート説明会 2011年5月20日(金)16:30
第14回経済学部キャリア委員会 2011年 6月 2日(木)16:40
第15回経済学部キャリア委員会 2011年 6月22日(水)16:40
経済学部キャリア委員会WG 2011年 7月 7日(木)10:00
経済学部キャリア委員会WG 2011年 7月12日(火)10:45
第16回経済学部キャリア委員会 2011年 7月21日(木)10:00
第2回全学キャリア委員会 2011年 7月26日(火)15:00
第17回経済学部キャリア委員会 2011年 7月29日(金)13:00
第18回経済学部キャリア委員会 2011年 8月23日(火)10:00
第19回経済学部キャリア委員会 2011年 9月 7日(水)14:00
第20回経済学部キャリア委員会 2011年 9月21日(水)09:00
第3回全学キャリア委員会 2011年 9月27日(火)15:00
第21回経済学部キャリア委員会 2011年10月 7日(水)13:00
第22回経済学部キャリア委員会 2011年10月18日(火)15:00
第4回全学キャリア委員会 2011年10月25日(火)15:00
第23回経済学部キャリア委員会 2011年11月 8日(火)16:40

- 第5回全学キャリア委員会 2011年11月22日(火)15:00
第24回経済学部キャリア委員会 2011年12月7日(水)16:40
第25回経済学部キャリア委員会 2012年1月18日(水)16:30
第26回経済学部キャリア委員会 2012年1月24日(火)14:00
第27回経済学部キャリア委員会 2012年2月8日(水)13:30
第28回経済学部キャリア委員会 2012年2月24日(金)14:00
第29回経済学部キャリア委員会 2012年3月12日(月)16:00



XII-2. 日経HR

 **創価大学** Discover your potential
自分校の発見

検索 日本語 SIZE: 大 中 小

▶ ホーム ▶ 資料請求 ▶ お問い合わせ ▶ サイトマップ ▶ アクセス
HOME REQUEST INQUIRIES SITEMAP ACCESS

▶ 大学案内 ▶ 学部・大学院 ▶ 入試情報 ▶ キャンパスライフ ▶ 国際交流・留学 ▶ 就職・資格
ABOUT SOKA UNIVERSITY DEPARTMENT / GRADUATE ADMISSION INFORMATION CAMPUS LIFE INTERNATIONAL AFFAIRS JOB / QUALIFICATION

HOME | Discover your potential 自分校の発見 > NEWS > 日経HR「就業力」学生アンケート518大学中、本学は19位

日経HR「就業力」学生アンケート518大学中、本学は19位

2011.07.07

日経HR「日経CAREER MAGAZINE」編集部が、就職情報サイト「日経就職ナビ2012」の登録会員(大学3年、院生1年)にインターネット上でアンケートを実施(2011.1.14~4.20に実施)した結果、有効回答518大学の中で本学は19位となりました。このアンケート結果は、2011年6月9日発行の「特別編集・日経CAREER MAGAZINE」<受験から就職まで 親と子のかしこい大学選び2012年版>に掲載されています。因みに、1位は東京外国語大、11位が早稲田大、14位が慶応大、17位が東京大、20位が九州大、26位が明治大などとなっています。

同誌によると、ランキングスコアの算出法は、①学業・課外活動・交友関係・就業観・就活基礎力・就職率に関するアンケート、②日経就職ナビで実施した模試の結果、③就業力が伸びると思われる大学の取り組み<社会人基礎力育成プログラム参加、就業力GP採択、グローバル30認定校等>、④就職率をそれぞれポイント化し、ランキングにしています。

本学学生へのアンケート項目の回答では、「留学体験があるか」が30%で6位、「先生に質問するか」が20%で6位、「(部活・ゼミなどの)合宿に参加したことがあるか」は90%で8位、「学生生活は楽しいか」は100%で1位、「学内に友人はいるか」も100%で1位、「学外に友人はいるか」も100%で1位となっています。

本学キャリアセンターの長谷川祐正部長は「このアンケート結果は、本学の学生が創大キャンパスで勉学、留学、クラブ活動、アルバイトなどに懸命に取り組んでいることの表れです。キャリアセンターのスタッフ一同、さらに学生の夢の実現に向かって、全力で応援してまいります」と語っています。



ツイート 21

@soka_univをフォロー

いいね!

96人が「いいね!」と言っています。Facebookにアカウント登録して、友達の「いいね!」を見てみましょう。

※ 多言語(簡体字中国語、繁体字中国語、ハングル)のページを見るためには、それぞれの言語のフォントが必要となります。

XII-3. 『世界標準の授業』をつくれ

時事通信出版社より、経済学部を取組みを紹介した本が出版されました。

